

第4章 資料編

I 人口動向の分析

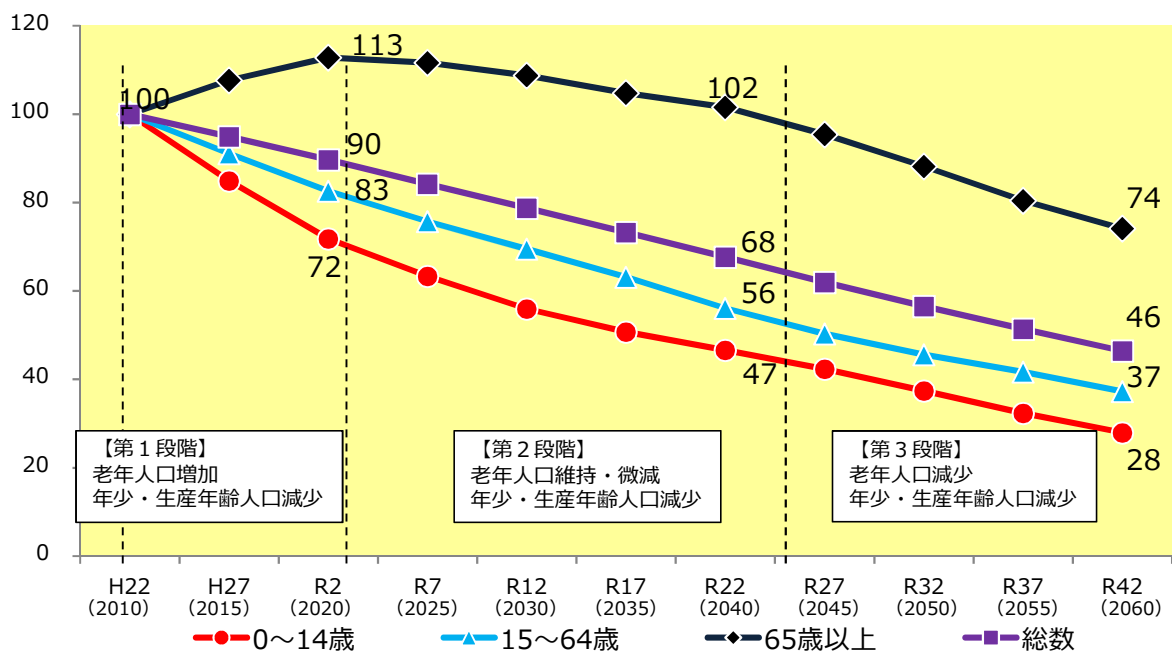
1 人口分析

(1) 人口減少段階の分析

【分析及び結果の整理】

- 年少人口は、減少し続け平成 22(2010) 年を 100 とした場合に、令和 22(2040) 年には 47、令和 44 年(2060) 年には 28 まで減少します。(平成 22(2010) 年の 3 分の 1 以下となる)
- 生産年齢人口は、減少し続け平成 22(2010) 年を 100 とした場合に、令和 22(2040) 年には 56、令和 44 年(2060) 年には 37 まで減少し、老年人口との同数近くになります。(平成 22(2010) 年の半分以上となる)
- 老年人口は、令和 2(2020) 年まで増加するがその後維持・微減傾向となり、令和 22(2040) 年には平成 22(2010) 年と同数程度となり、その後減少し続けます。

図表12 人口の減少段階（長期推計）



※令和 22(2040) 年以降は令和 22(2040) 年推計と同様の人口動向を維持した場合の参考推計

《年齢3区分別人口の長期推計》

単位(人)

年	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22	R27	R32	R37	R42
区分	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
総人口	66,027	62,689	59,234	55,617	52,021	48,383	44,678	40,920	37,334	33,918	30,670
0～14歳	8,388	7,122	6,024	5,314	4,695	4,255	3,913	3,551	3,139	2,713	2,346
15～64歳	39,094	35,599	32,290	29,597	27,162	24,690	21,928	19,675	17,836	16,291	14,576
65歳以上	18,545	19,968	20,920	20,707	20,164	19,437	18,837	17,695	16,360	14,915	13,749

※各年 10 月 1 日現在人口。平成 22(2010) 年は、総務省統計局『国勢調査報告』(国籍・年齢「不詳人口」をあん分補正した人口)による。

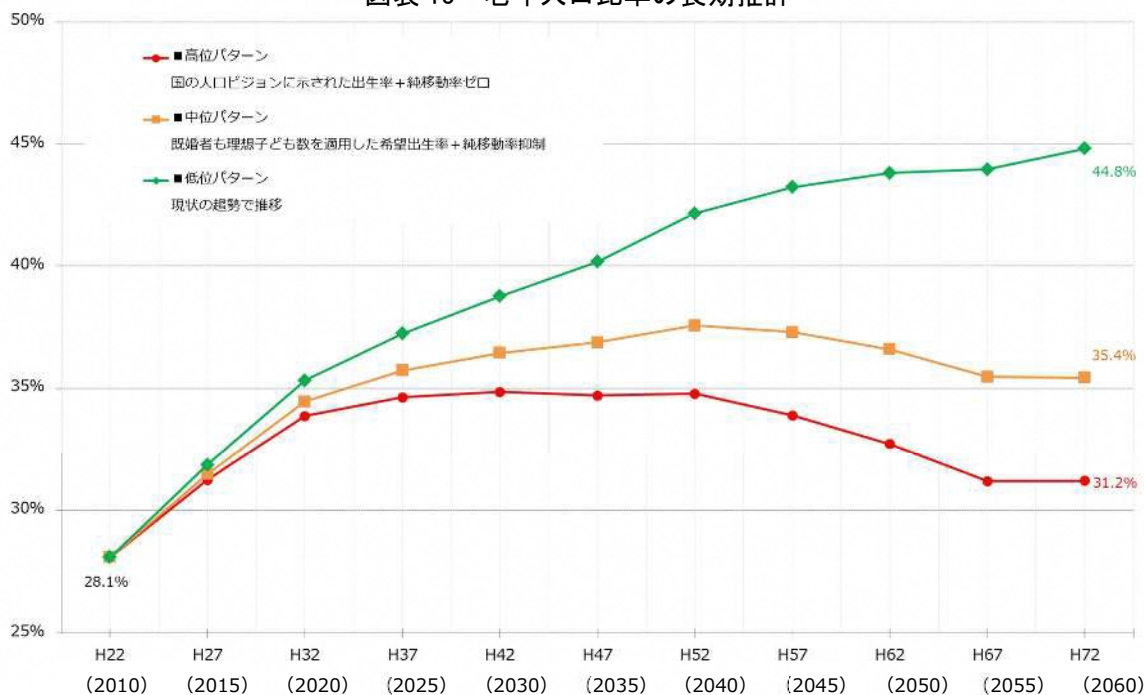
※年齢 3 区分ごとに端数処理をしているため、総人口が一致しない場合がある。

(2) 老年人口比率の長期推計

【分析及び結果の整理】

- 低位パターン（現状の趨勢のまま）は、老年人口比率が上昇し続けます。
- 低位パターン（現状の趨勢のまま）は、令和 42（2060）年に老年人口比率が 44.8%に達します。
- 一方で中位パターン（理想の子ども数を適用した希望出生率＋純移動率抑制）では令和 22（2040）年に 37.6%、高位パターン（国の人口ビジョンに示された出生率まで向上＋純移動率ゼロ）では令和 22（2040）年に 34.8%でピークを迎え、その後低下します。
- 長期的に老年人口比率の上昇を食い止めるには、出生率の増加しか方法はありません。ただし、人口移動の均衡が図られれば、上昇のスピードを抑制することは可能であると推測されます。

図表 13 老年人口比率の長期推計



《老年人口比率の長期推計》

パターン	年	H22 2010年	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	R27 2045年	R32 2050年	R37 2055年	R42 2060年
■ 高位パターン 国の人口ビジョンに示された出生率 ＋純移動率ゼロ		28.1%	31.2%	33.9%	34.6%	34.8%	34.7%	34.8%	33.9%	32.7%	31.2%	31.2%
■ 中位パターン 理想の子ども数を適用した希望出生 率＋純移動率抑制		28.1%	31.5%	34.5%	35.7%	36.4%	36.9%	37.6%	37.3%	36.6%	35.5%	35.4%
■ 低位パターン 現状の趨勢で推移		28.1%	31.9%	35.3%	37.2%	38.8%	40.2%	42.2%	43.2%	43.8%	44.0%	44.8%

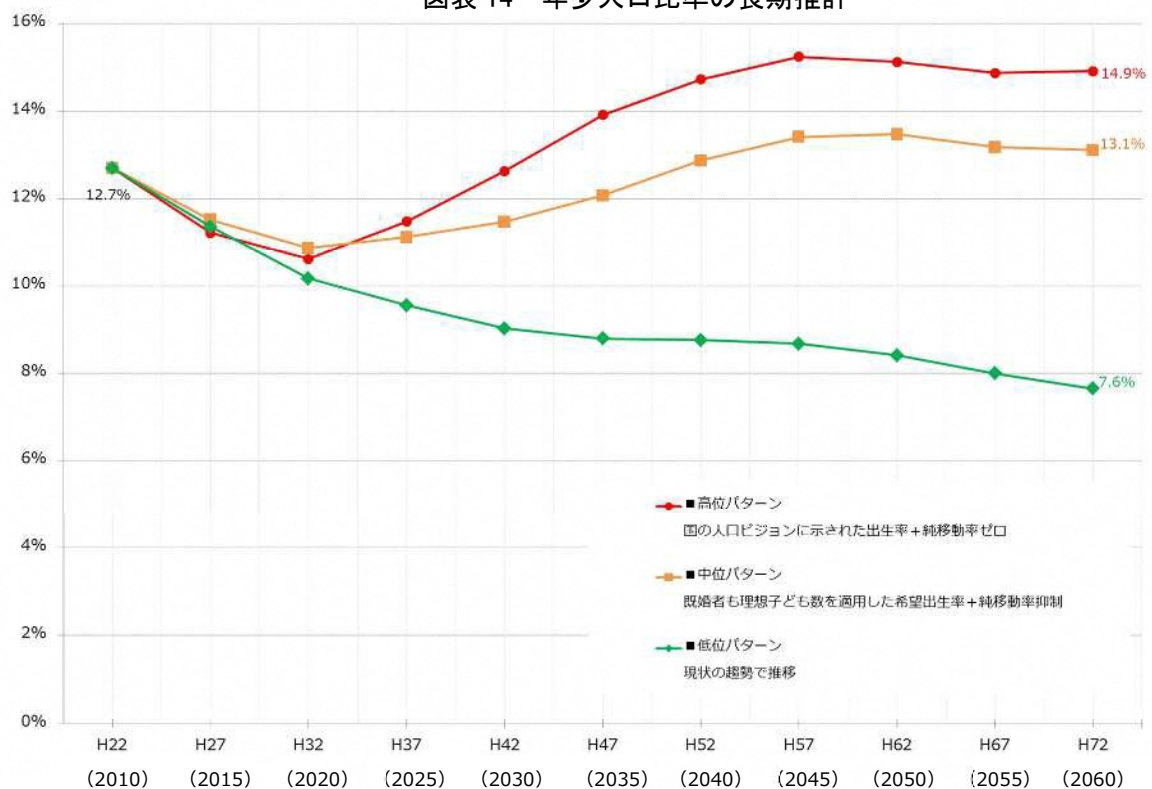
第4章 資料編

(3) 年少人口比率の長期推計

【分析及び結果の整理】

- 低位パターン（現状の趨勢のまま）は、年少人口比率が低下し続けます。
- 中位パターン（理想の子ども数を適用した希望出生率＋純移動率抑制）と高位パターン（国の人口ビジョンに示された出生率まで向上＋純移動率ゼロ）では、令和7（2025）年から年少人口比率が上昇に転じます。
- 出生率の増加により年少人口比率を上昇させる効果があります。また人口移動の均衡によって、年少人口比率の低下を抑制することができるものと考えられます。

図表 14 年少人口比率の長期推計



《年少人口比率の長期推計》

パターン	年	H22 2010年	H27 2015年	R2 2020年	R7 2025年	R12 2030年	R17 2035年	R22 2040年	R27 2045年	R32 2050年	R37 2055年	R42 2060年
■ 高位パターン 国の人口ビジョンに示された出生率 ＋純移動率ゼロ		12.7%	11.2%	10.6%	11.5%	12.6%	13.9%	14.7%	15.2%	15.1%	14.9%	14.9%
■ 中位パターン 理想の子ども数を適用した希望出生 率＋純移動率抑制		12.7%	11.5%	10.9%	11.1%	11.5%	12.1%	12.9%	13.4%	13.5%	13.2%	13.1%
■ 低位パターン 現状の趨勢で推移		12.7%	11.4%	10.2%	9.6%	9.0%	8.8%	8.8%	8.7%	8.4%	8.0%	7.6%

2 市外への人口移動の推移

(1) 地域間の人口移動の推移

【分析及び結果の整理】

- 従来、本市からは福島市への転出超過が高い傾向にありましたが、平成 29 (2017) 年及び平成 30 (2018) 年は反対に転入超過となっています。
- 一方、東京圏、宮城県については引き続き転出超過の傾向が強くみられます。
- 図表 15、16 の結果を合わせてみると、年少人口（特に 10 歳未満）とその親の世代にあたる 30 代～40 代の転入超過が目立っており、この世代で県内の他市町村から本市への転入が多いものと考えられます。
- 高校・短大・大学等卒業後の就職や婚姻時の住居移転など、福島市との間での移動が大きな割合を占めていることが示唆されます。東京圏・宮城県への転出超過は高校・短大・大学等卒業後の就職が多いことが推測されます。

図表15 地域間の人口移動の状況

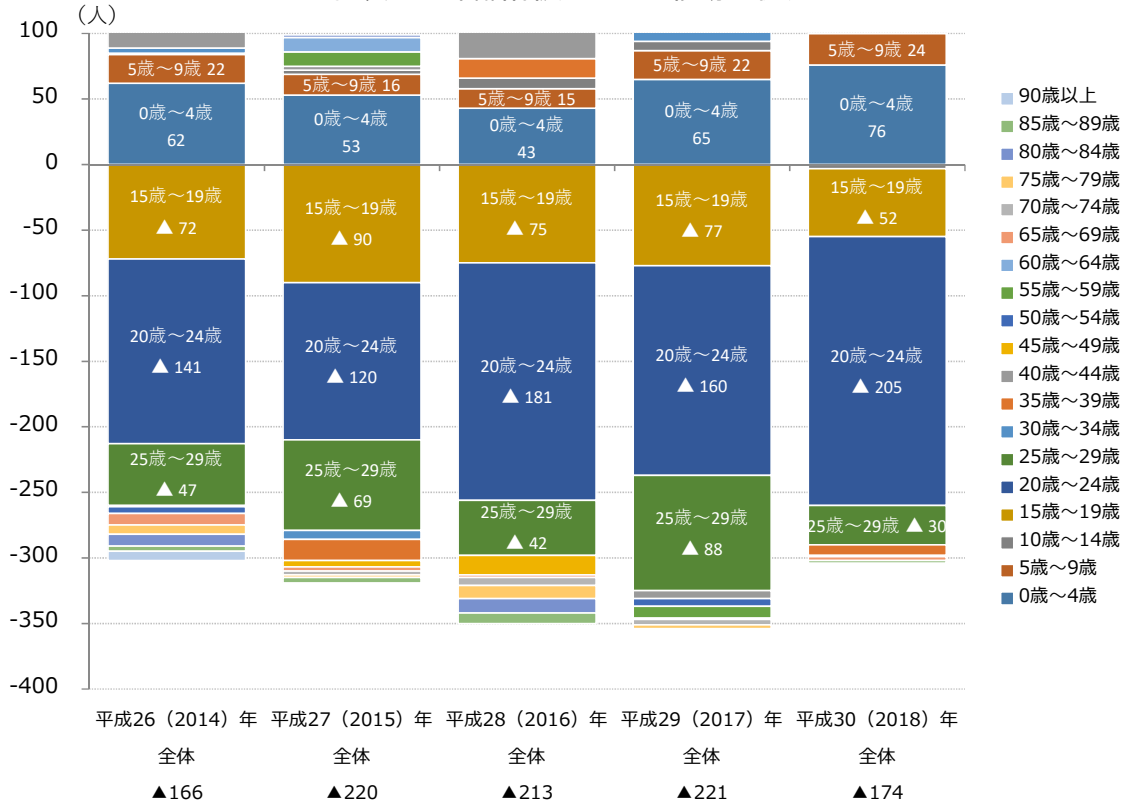


地域	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	地域	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)
福島市	▲136	▲103	▲77	53	70	伊達郡	18	▲49	▲20	▲6	▲30
会津若松市	▲5	8	1	▲2	▲1	その他県内	▲1	40	▲11	40	20
郡山市	0	▲15	▲38	▲21	▲3	宮城県	▲37	▲25	▲33	▲73	▲49
いわき市	1	▲2	8	0	▲13	山形県	20	12	▲2	5	▲5
二本松市	5	▲4	13	▲11	▲19	東京圏	▲47	▲136	▲68	▲117	▲97
相馬市	12	4	-	▲10	▲2	その他県外	3	44	▲5	▲83	2
南相馬市	1	6	19	4	▲6	合計	▲166	▲220	▲213	▲221	▲133

(出所) 住民基本台帳人口移動報告

第4章 資料編

図表16 年齢階級別の人口移動の状況



年齢階級	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	年齢階級	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)
0 歳 ～ 4 歳	62	53	43	65	76	50 歳 ～ 54 歳	▲ 5	0	9	▲ 6	4
5 歳 ～ 9 歳	22	16	15	22	24	55 歳 ～ 59 歳	9	11	11	▲ 9	0
10 歳 ～ 14 歳	1	3	8	7	▲ 3	60 歳 ～ 64 歳	4	11	8	9	5
15 歳 ～ 19 歳	▲ 72	▲ 90	▲ 75	▲ 77	▲ 52	65 歳 ～ 69 歳	▲ 9	▲ 3	▲ 2	▲ 1	▲ 3
20 歳 ～ 24 歳	▲ 141	▲ 120	▲ 181	▲ 160	▲ 205	70 歳 ～ 74 歳	2	▲ 3	▲ 6	▲ 4	4
25 歳 ～ 29 歳	▲ 47	▲ 69	▲ 42	▲ 88	▲ 30	75 歳 ～ 79 歳	▲ 7	▲ 2	▲ 10	▲ 3	0
30 歳 ～ 34 歳	4	▲ 7	0	8	13	80 歳 ～ 84 歳	▲ 9	2	▲ 11	▲ 1	1
35 歳 ～ 39 歳	▲ 1	▲ 16	15	3	▲ 8	85 歳 ～ 89 歳	▲ 4	▲ 4	▲ 8	6	▲ 2
40 歳 ～ 44 歳	22	3	21	▲ 6	▲ 1	90 歳 以 上	▲ 7	0	7	5	2
45 歳 ～ 49 歳	10	▲ 5	▲ 15	9	1	合 計	▲ 166	▲ 220	▲ 213	▲ 221	▲ 174

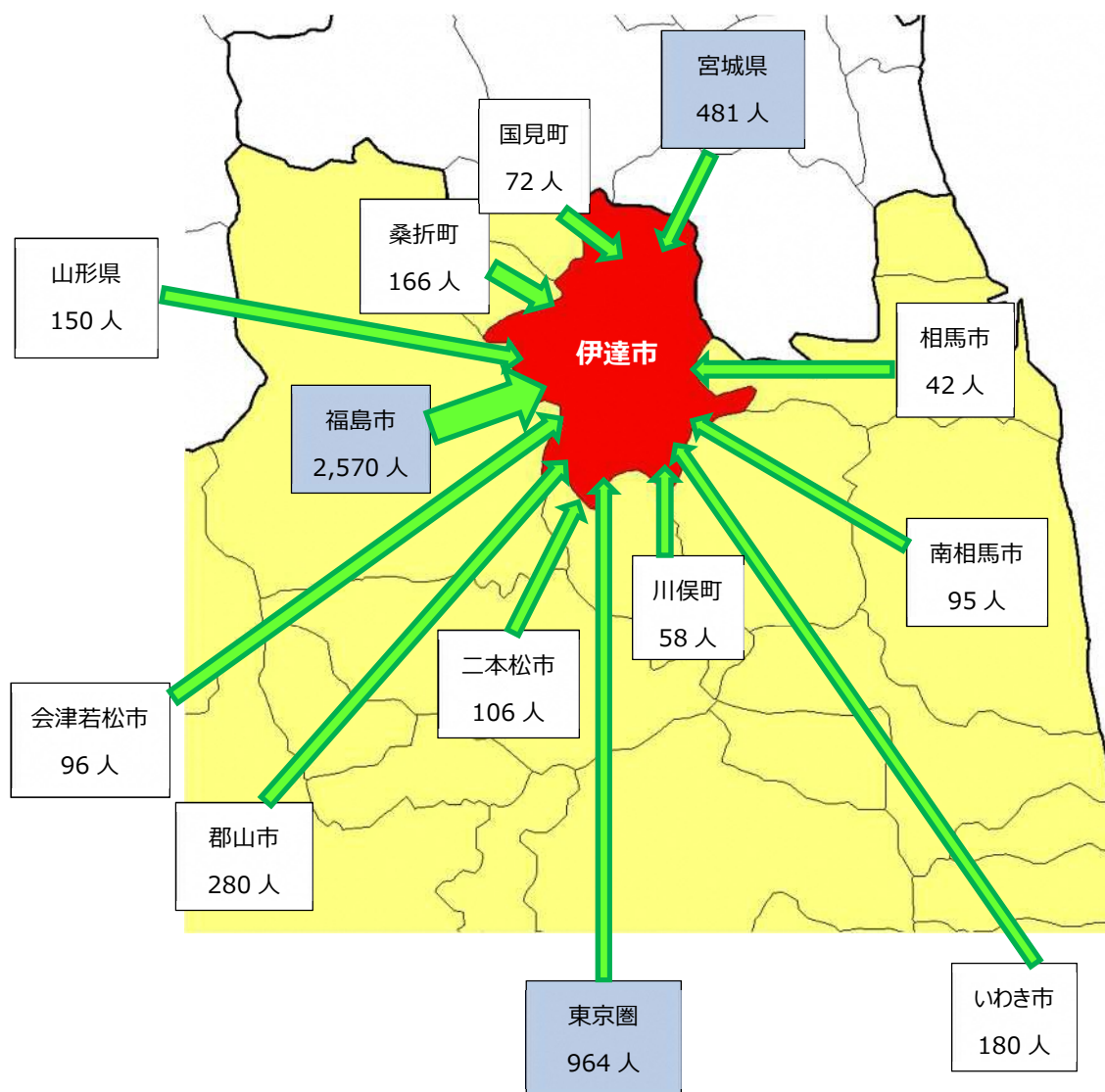
(出所) 住民基本台帳人口移動報告

(2) 転入者の転入元の住所地(伊達市への人口移動の状況 2014 年～2018 年累計)

【分析及び結果の整理】

- 本市における転入・転出は福島市との関係が最も強く、転入者数・転出者数ともに群を抜いています。従来、福島市への転出超過が圧倒的でしたが、平成 29 (2017) 年、平成 30 (2018) 年と 2 年連続で転入超過となっています。
- 宮城県・東京圏については大幅な転出超過の傾向が続いています。

図表 17 伊達市への転入者の転入元の主な市町村(2014 年～2018 年累計)

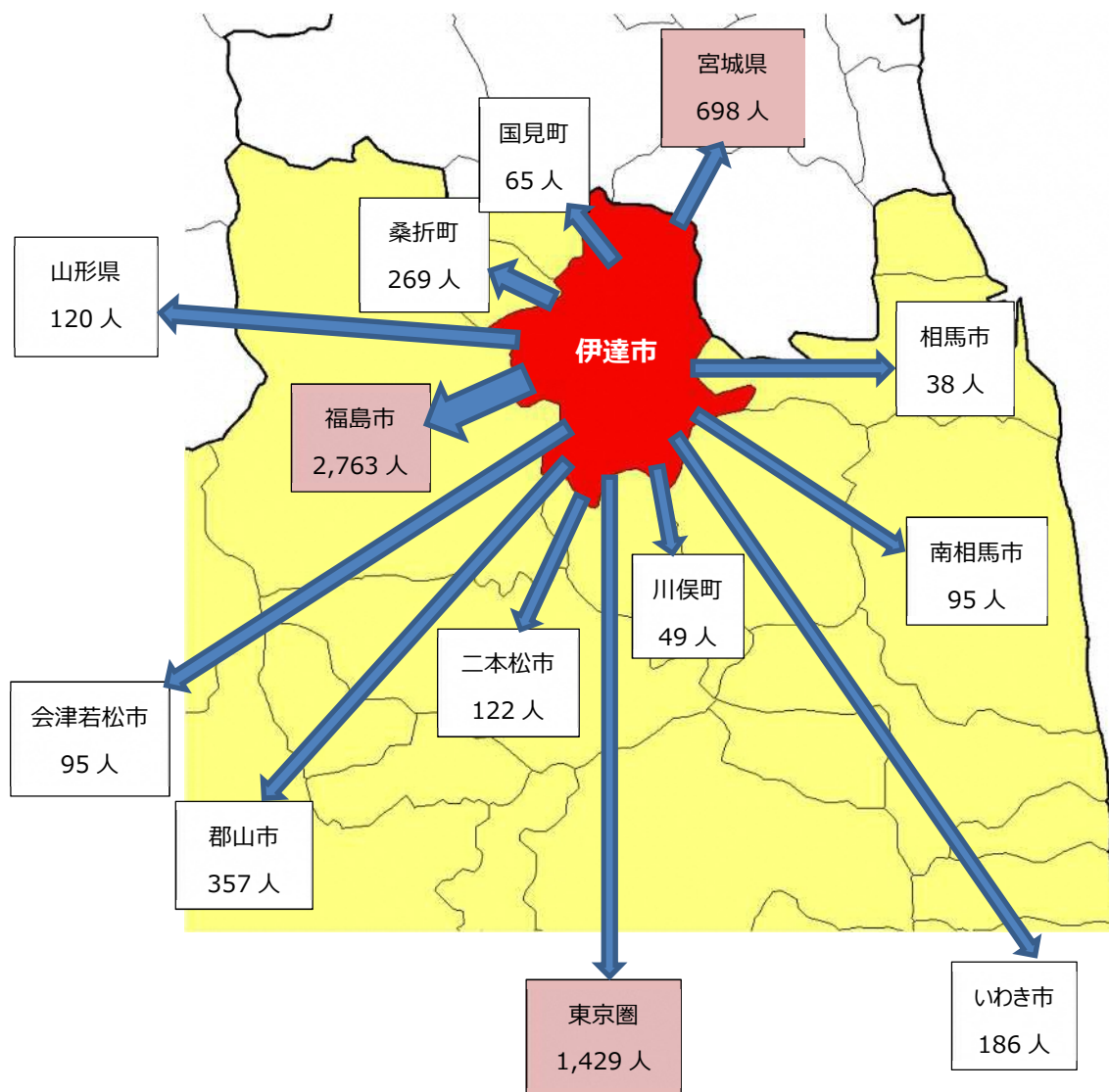


(出所) 住民基本台帳人口移動報告

第4章 資料編

(3) 転出者の転出先の住所地(伊達市からの人口移動の状況 2014年～2018年累計)

図表 18 伊達市からの転出者の転出先の主な市町村(2014年～2018年累計)



地域	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	地域	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)
福島市	▲ 136	▲ 103	▲ 77	53	70	伊達郡	18	▲ 49	▲ 20	▲ 6	▲ 30
会津若松市	▲ 5	8	1	▲ 2	▲ 1	その他県内	▲ 1	40	▲ 11	40	20
郡山市	0	▲ 15	▲ 38	▲ 21	▲ 3	宮城県	▲ 37	▲ 25	▲ 33	▲ 73	▲ 49
いわき市	1	▲ 2	8	0	▲ 13	山形県	20	12	▲ 2	5	▲ 5
二本松市	5	▲ 4	13	▲ 11	▲ 19	東京圏	▲ 47	▲ 136	▲ 68	▲ 117	▲ 97
相馬市	12	4	-	▲ 10	▲ 2	その他県外	3	44	▲ 5	▲ 83	2
南相馬市	1	6	19	4	▲ 6	合計	▲ 166	▲ 220	▲ 213	▲ 221	▲ 133

(出所) 住民基本台帳人口移動報告

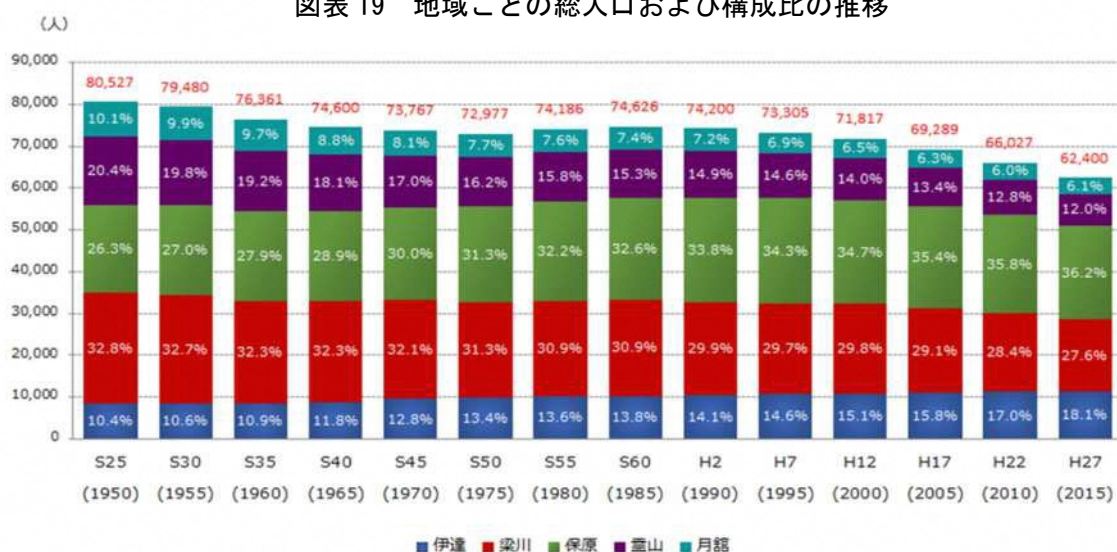
3 地域ごとの人口推移と将来推計

(1) 総人口の推移

【分析及び結果の整理】

- 伊達地域については、市街地が福島市へ隣接しており都市化が進んでいるため人口は維持・増加傾向にあります。
- 梁川地域については、1950 年代から現在まで人口減少が続いています。区画整理等により人口を維持してきましたが近年は減少傾向にあります。
- 保原地域については、かつては福島市の衛星都市として人口増加が見られたもののバブル経済期以降は減少傾向にあります。
- 霊山・月舘地域については、1950 年代から現在まで人口減少が進んでおり2015 年には1950 年の半分以上になっています。
- 中山間地が比較的多い地域や一次産業従事者が多かった地域の人口減少が著しく、地域別の構成比では保原地域と伊達地域が高まる傾向が続いています。

図表 19 地域ごとの総人口および構成比の推移



(単位:人)

区分	和暦	S25	S30	S35	S40	S45	S50	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27
	西暦	1950	1955	1960	1965	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015
地域人口	伊達	8,356	8,427	8,335	8,825	9,450	9,773	10,063	10,275	10,455	10,704	10,857	10,958	11,193	11,290
	梁川	26,425	25,953	24,688	24,122	23,653	22,869	22,921	23,040	22,217	21,745	21,385	20,157	18,749	17,238
	保原	21,176	21,443	21,339	21,554	22,133	22,856	23,859	24,348	25,081	25,116	24,891	24,521	23,654	22,587
	霊山	16,397	15,753	14,627	13,525	12,519	11,855	11,728	11,439	11,082	10,701	10,031	9,259	8,443	7,467
	月舘	8,173	7,904	7,372	6,574	6,012	5,624	5,615	5,524	5,365	5,039	4,653	4,394	3,988	3,818
	総人口	80,527	79,480	76,361	74,600	73,767	72,977	74,186	74,626	74,200	73,305	71,817	69,289	66,027	62,400

(出所) 国勢調査

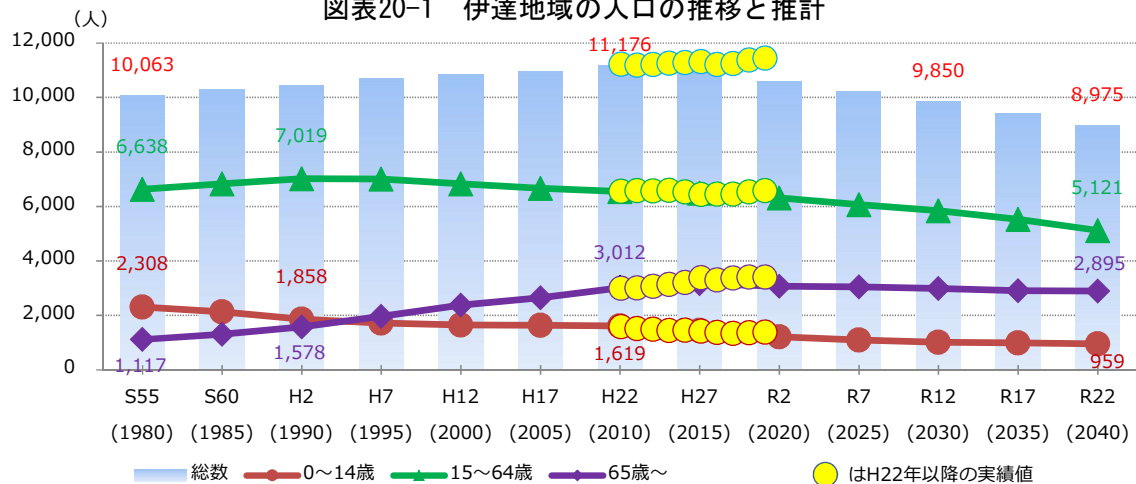
第4章 資料編

(2) 地域ごとの人口推移と将来推計

【伊達地域の分析及び結果の整理】

- 平成 22 (2010) 年をピークに人口減少を見込んでいましたが、老年人口の増加を背景に平成 27 (2015) 年は平成 22 (2010) 年比で唯一人口が増加した地域となりました。
- 令和 12 (2030) 年に総人口が 10,000 人を下回ると見込まれます。
- 平成 7 (1995) 年に、老年人口が年少人口を上回っています。
- 住民基本台帳ベースの人口では平成 30 (2018) 年以降、年少人口と生産年齢人口も増加傾向で推移しています。

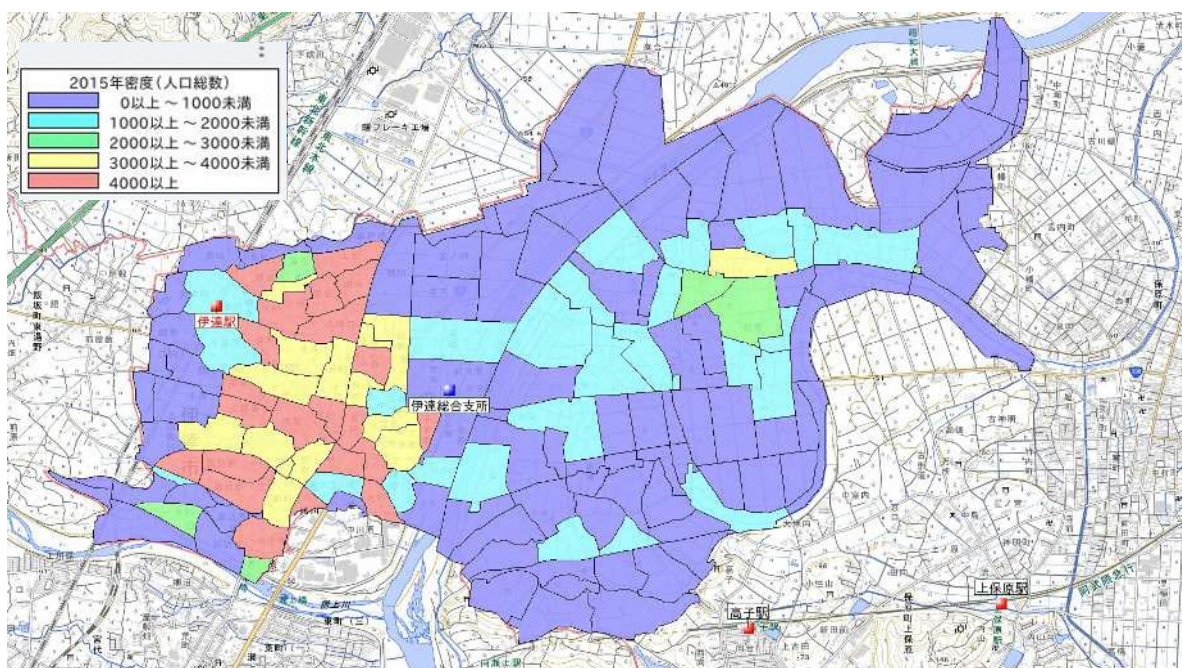
図表20-1 伊達地域の人口の推移と推計



和暦	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
区分	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0~14歳	22.9%	20.7%	17.8%	16.0%	15.2%	14.9%	14.5%	13.1%	11.5%	10.7%	10.3%	10.5%	10.7%
15~64歳	66.0%	66.5%	67.1%	65.5%	62.9%	60.9%	58.6%	58.4%	59.5%	59.4%	59.3%	58.6%	57.1%
65歳~	11.1%	12.8%	15.1%	18.4%	21.9%	24.2%	27.0%	28.5%	29.0%	29.9%	30.4%	30.8%	32.3%

(出所) 平成 22 (2010) 年までは国勢調査、平成 27 (2015) 年以降は第 2 次総合計画での推計値

伊達地域人口密度 (2015 年) 人口密度 = 1 km²あたり人口 (人)

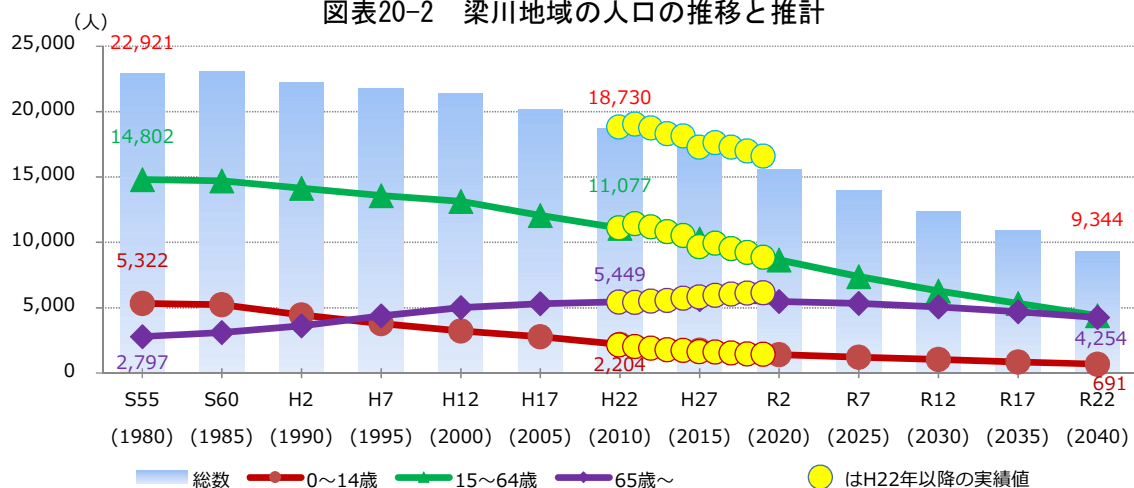


(出所) 国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

【梁川地域の分析及び結果の整理】

- 平成 2（1990）年から人口減少が始まり、今後もさらに減少すると見込まれます。
- 平成 7（1995）年に、老年人口が年少人口を上回っています。
- 令和 22（2040）年には、生産年齢人口と老年人口がほぼ同数となると見込まれます。
- 平成 22（2010）年比でみた平成 27（2015）年の人口は、総人口と生産年齢人口の減少が地域別で最多となっています。

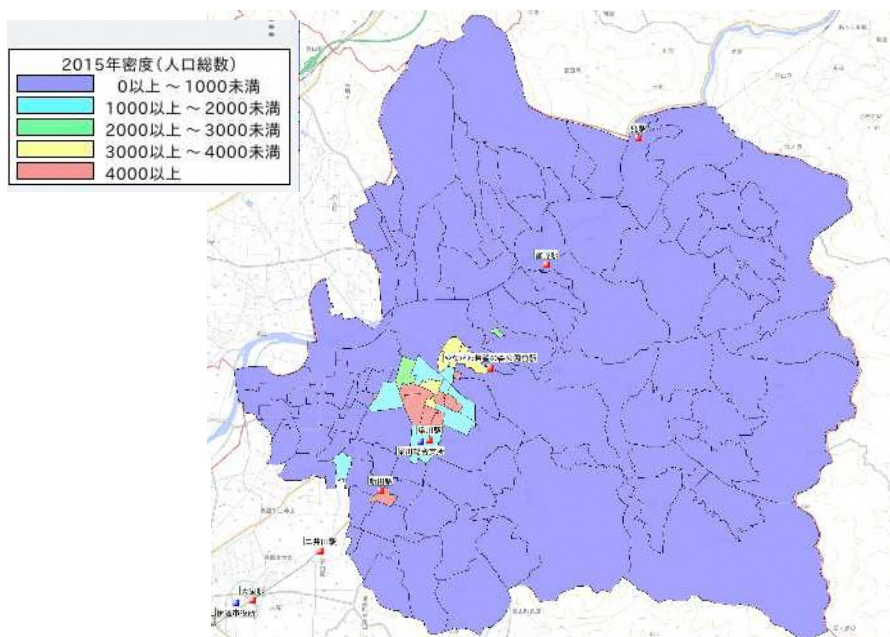
図表20-2 梁川地域の人口の推移と推計



和暦	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
区分	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0～14歳	23.2%	22.7%	20.0%	17.4%	15.1%	13.8%	11.8%	9.9%	9.1%	8.8%	8.4%	7.7%	7.4%
15～64歳	64.6%	63.8%	63.7%	62.5%	61.5%	59.8%	59.1%	58.2%	55.6%	53.0%	50.8%	49.0%	47.1%
65歳～	12.2%	13.4%	16.3%	20.1%	23.5%	26.4%	29.1%	31.9%	35.3%	38.2%	40.8%	43.2%	45.5%

（出所）平成 22（2010）年までは国勢調査、平成 27（2015）年以降は第 2 次総合計画での推計値

梁川地域人口密度（2015 年） 人口密度 = 1 km²あたり人口（人）



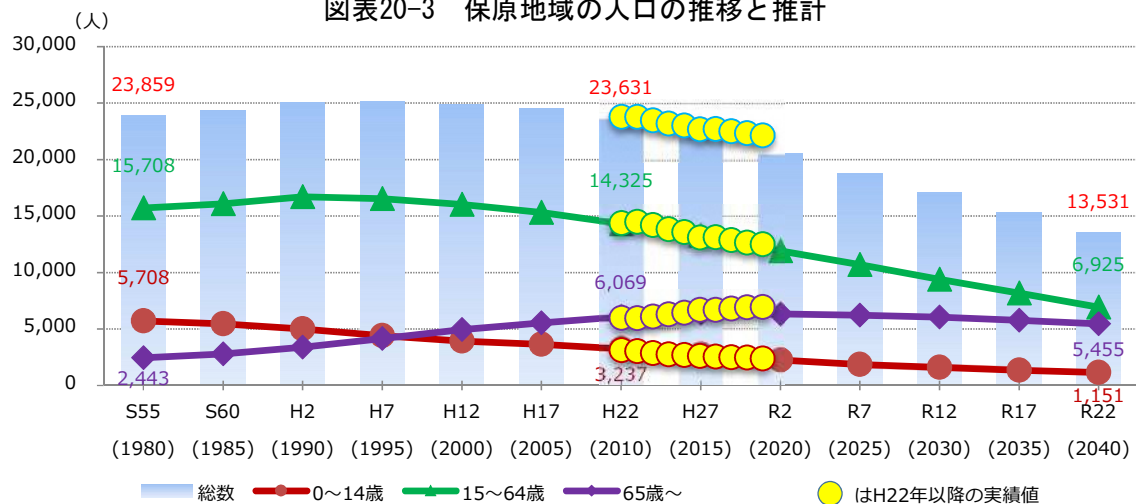
（出所）国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

第4章 資料編

【保原地域の分析及び結果の整理】

- 総人口は平成 7（1990）年をピークに今後も減少が見込まれます。
- 平成 12（2000）年に、老年人口が年少人口を上回っています。
- 令和 22（2040）年には、生産年齢人口と老年人口がほぼ同数となると見込まれます。
- 当初推計と比較では老年人口が上回り推移しており、総人口もやや上回っています。

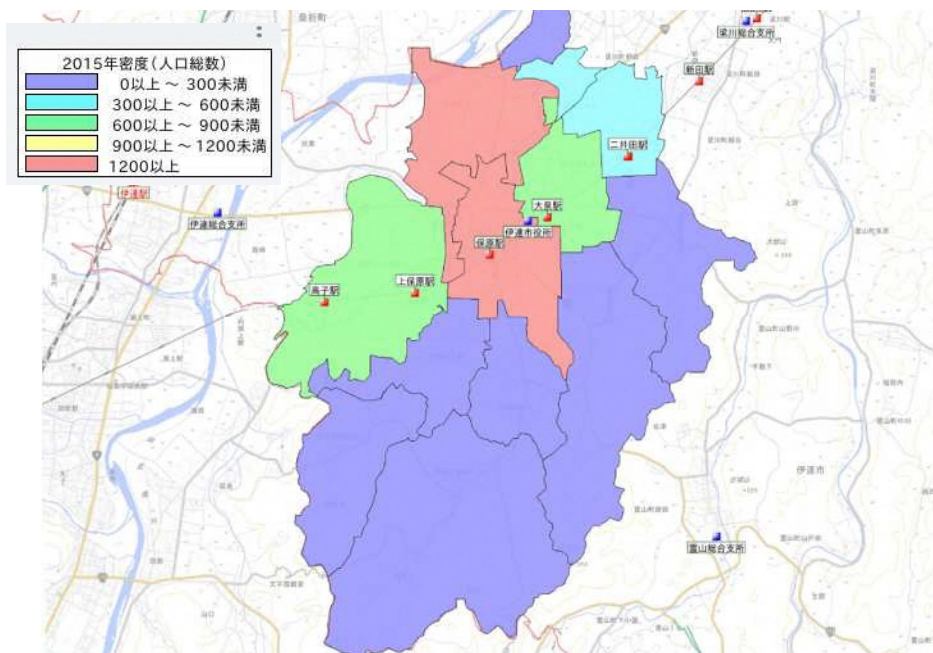
図表20-3 保原地域の人口の推移と推計



和暦	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
区分	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0～14歳	23.9%	22.4%	19.9%	17.6%	15.8%	14.9%	13.7%	12.2%	11.0%	9.9%	9.3%	8.8%	8.5%
15～64歳	65.8%	66.1%	66.6%	65.9%	64.4%	62.5%	60.6%	59.2%	58.1%	56.9%	55.1%	53.4%	51.2%
65歳～	10.2%	11.5%	13.5%	16.5%	19.8%	22.6%	25.7%	28.5%	30.8%	33.2%	35.5%	37.8%	40.3%

（出所）平成 22（2010）年までは国勢調査、平成 27（2015）年以降は第 2 次総合計画での推計値

保原地域人口密度（2015 年） 人口密度 = 1 km²あたり人口（人）

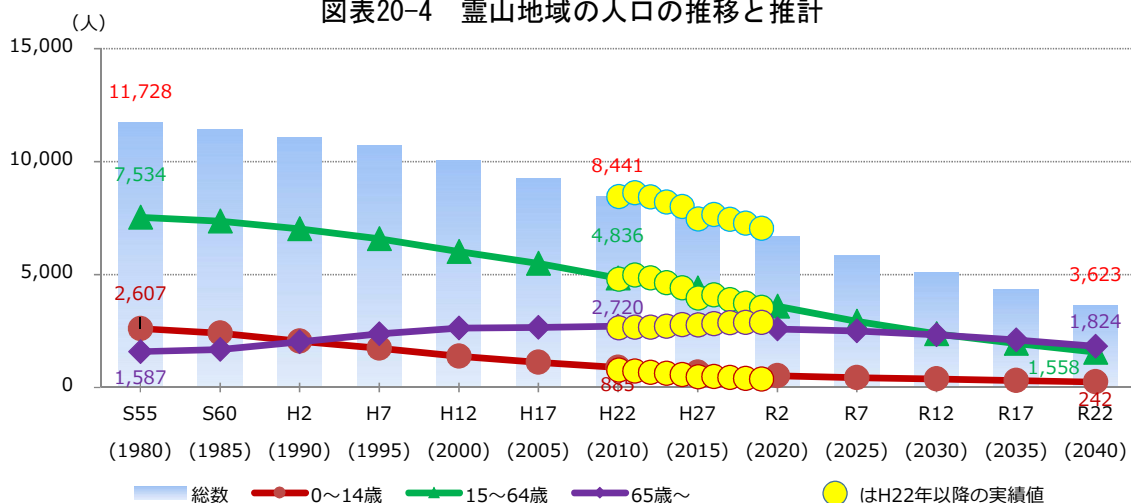


（出所）国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

【霊山地域の分析及び結果の整理】

- 総人口は昭和 55（1980）年をピークに減少傾向にあり、今後も減少が見込まれます。
- 平成 7（1995）年に、老年人口が年少人口を上回っています。
- 令和 17（2035）年には、老年人口が生産年齢人口を上回ると見込まれます。
- 生産年齢人口の減少が当初推計よりも大きく、総人口も推計を下回っています。

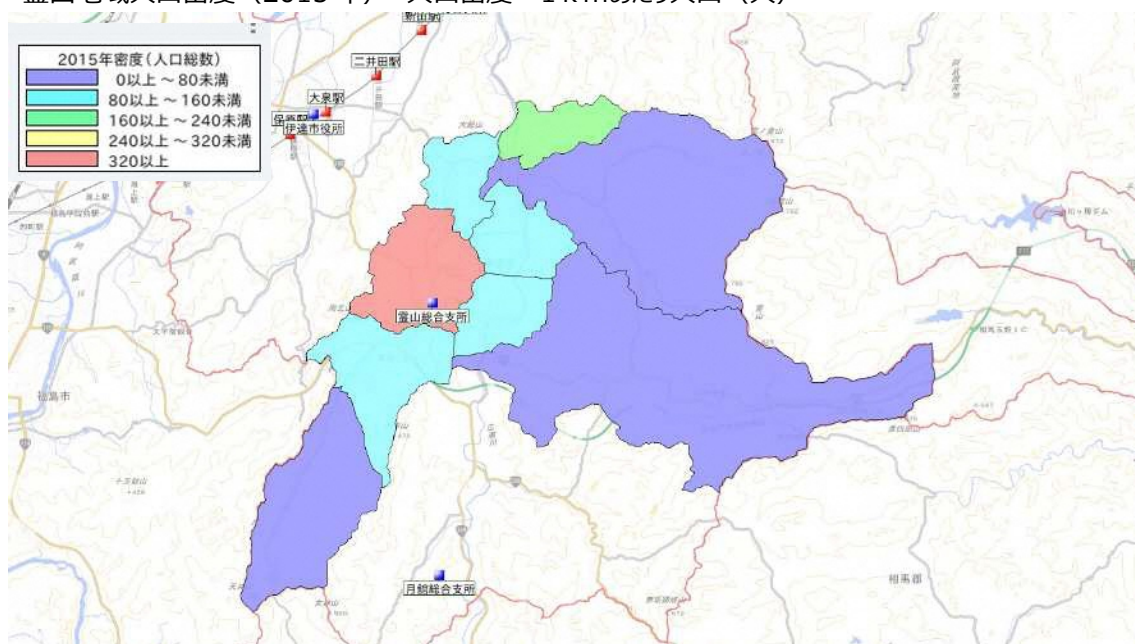
図表20-4 霊山地域の人口の推移と推計



和暦	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
区分	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0～14歳	22.2%	20.9%	18.4%	16.2%	13.8%	12.0%	10.5%	8.5%	7.8%	7.4%	7.5%	7.0%	6.7%
15～64歳	64.2%	64.3%	63.4%	61.5%	60.0%	59.4%	57.3%	56.1%	53.7%	49.9%	46.8%	44.7%	43.0%
65歳～	13.5%	14.7%	18.2%	22.2%	26.2%	28.7%	32.2%	35.4%	38.5%	42.8%	45.7%	48.3%	50.3%

（出所）平成 22（2010）年までは国勢調査、平成 27（2015）年以降は第 2 次総合計画での推計値

霊山地域人口密度（2015 年） 人口密度 = 1 km²あたり人口（人）



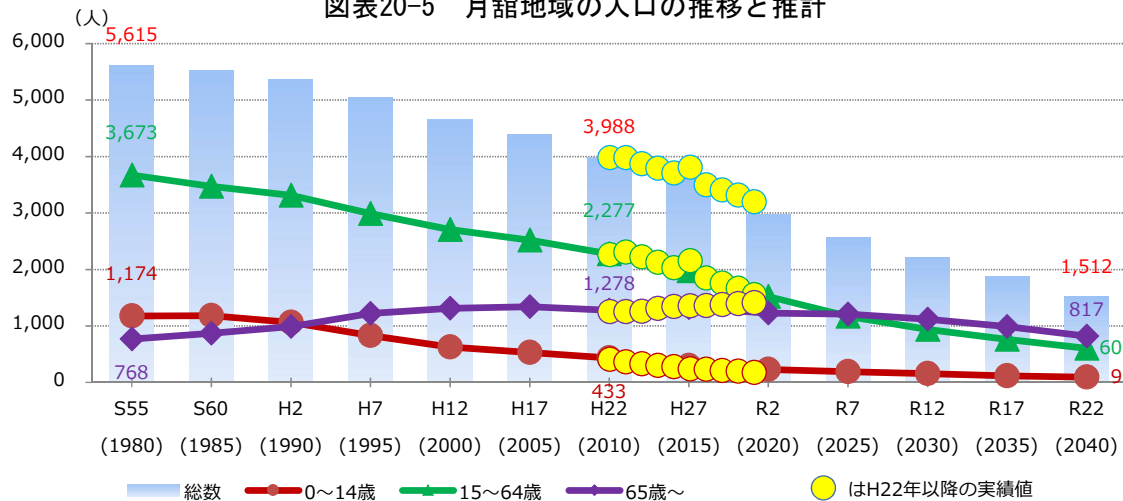
（出所）国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

第4章 資料編

【月舘地域の分析及び結果の整理】

- 総人口は昭和 55（1980）年をピークに減少傾向にあり、今後も減少が見込まれます。
- 平成 7（1995）年に、老年人口が年少人口を上回っています。
- 令和 7（2025）年には、老年人口が生産年齢人口を上回ると見込まれます。

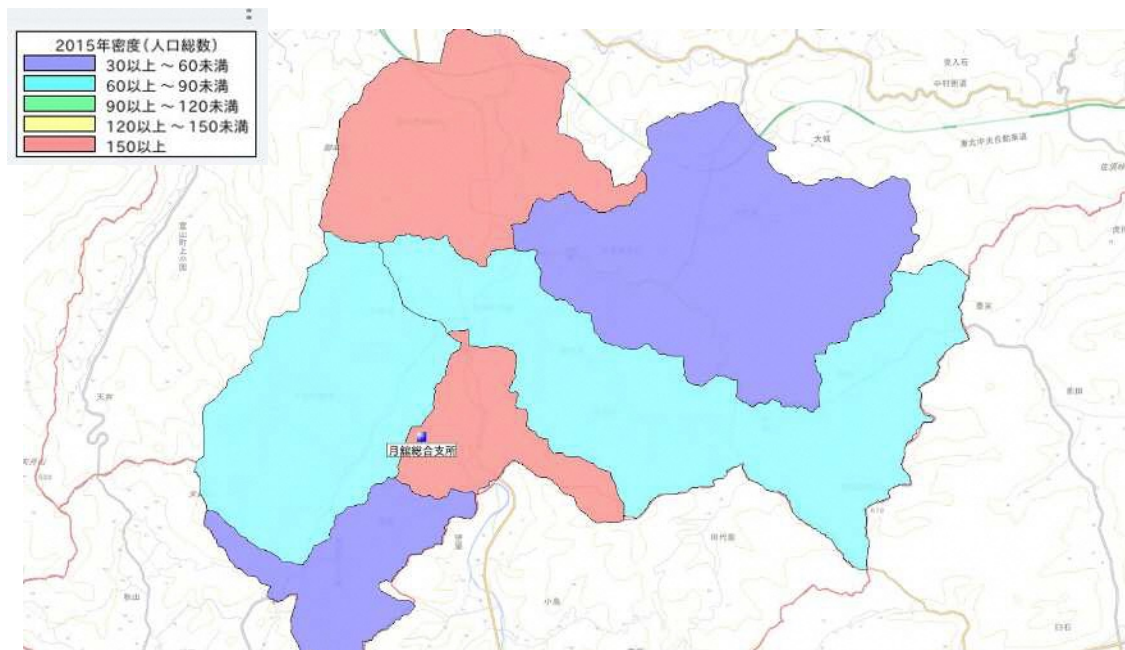
図表20-5 月舘地域の人口の推移と推計



和暦	S55	S60	H2	H7	H12	H17	H22	H27	R2	R7	R12	R17	R22
区分	1980	1985	1990	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2025	2030	2035	2040
0～14歳	20.9%	21.4%	19.8%	16.5%	13.5%	12.1%	10.9%	8.3%	7.8%	7.4%	7.1%	6.3%	6.1%
15～64歳	65.4%	62.8%	61.8%	59.3%	58.2%	57.4%	57.1%	54.9%	51.0%	45.6%	42.4%	40.8%	39.9%
65歳～	13.7%	15.7%	18.5%	24.2%	28.3%	30.5%	32.0%	36.8%	41.2%	47.0%	50.5%	52.9%	54.0%

（出所）平成 22（2010）年までは国勢調査、平成 27（2015）年以降は第 2 次総合計画での推計値

霊山地域人口密度（2015 年） 人口密度 = 1 km²あたり人口（人）



（出所）国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

《地域別人口推計と実績比較》

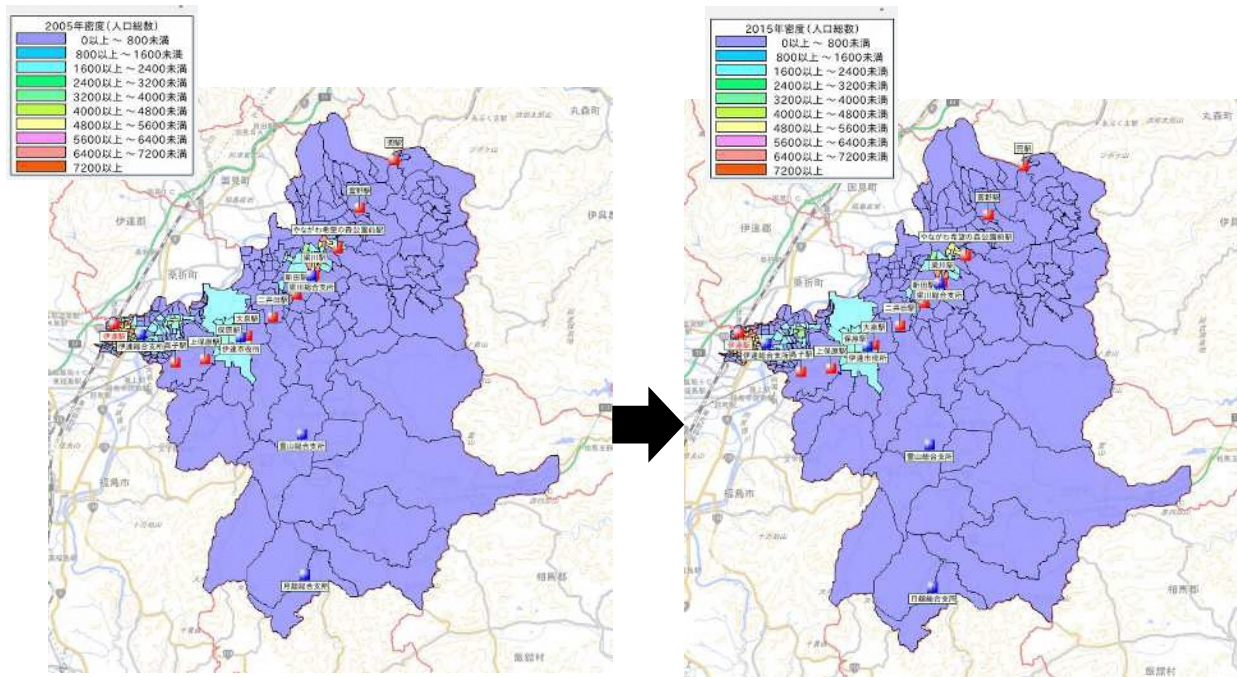
(単位：人)

地域	年齢区分	実績	当初推計	実績 H27年 (2015年)	当初推計と 実績の差
		H22年 (2010年)	H27年 (2015年)		
伊達	総数	11,176	11,117	11,290	173
	0～14歳	1,619	1,455	1,449	▲ 6
	15～64歳	6,545	6,491	6,428	▲ 63
	65歳～	3,012	3,171	3,397	226
梁川	総数	18,730	17,661	17,238	▲ 423
	0～14歳	2,204	1,756	1,689	▲ 67
	15～64歳	11,077	10,270	9,657	▲ 613
	65歳～	5,449	5,635	5,853	218
保原	総数	23,631	22,493	22,587	94
	0～14歳	3,237	2,755	2,714	▲ 41
	15～64歳	14,325	13,321	13,071	▲ 250
	65歳～	6,069	6,418	6,757	339
霊山	総数	8,441	7,847	7,467	▲ 380
	0～14歳	885	669	591	▲ 78
	15～64歳	4,836	4,401	4,020	▲ 381
	65歳～	2,720	2,777	2,852	75
月舘	総数	3,988	3,600	3,818	218
	0～14歳	433	298	269	▲ 29
	15～64歳	2,277	1,975	2,174	199
	65歳～	1,278	1,326	1,375	49
伊達市 合計	総数	65,966	62,718	62,400	▲ 318
	0～14歳	8,378	6,931	6,712	▲ 219
	15～64歳	39,060	36,455	35,350	▲ 1,105
	65歳～	18,528	19,332	20,234	902

※年齢区分不詳があり、年齢区分合計と総数は一致しない。

(出所) 国勢調査

《人口密度（伊達市全域、小地域別）》



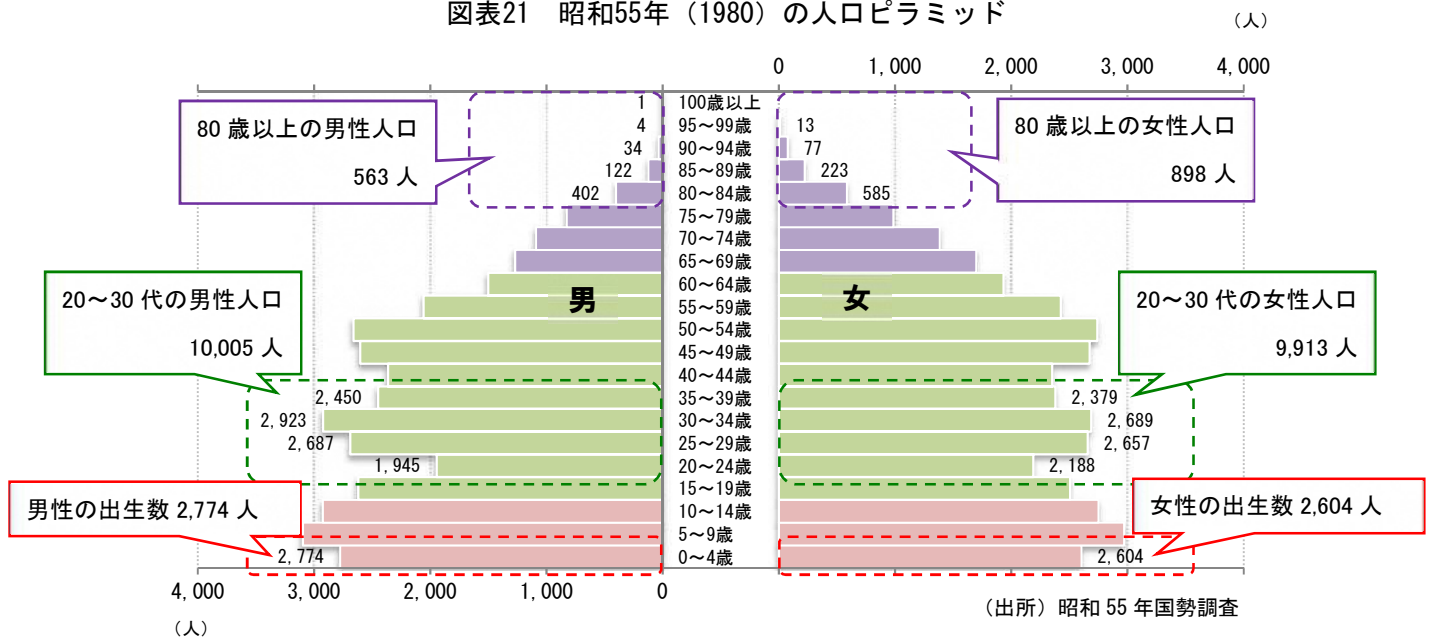
(出所) 国勢調査小地域集計より jSTAT MAP で作成、国土地理院地図を使用

第4章 資料編

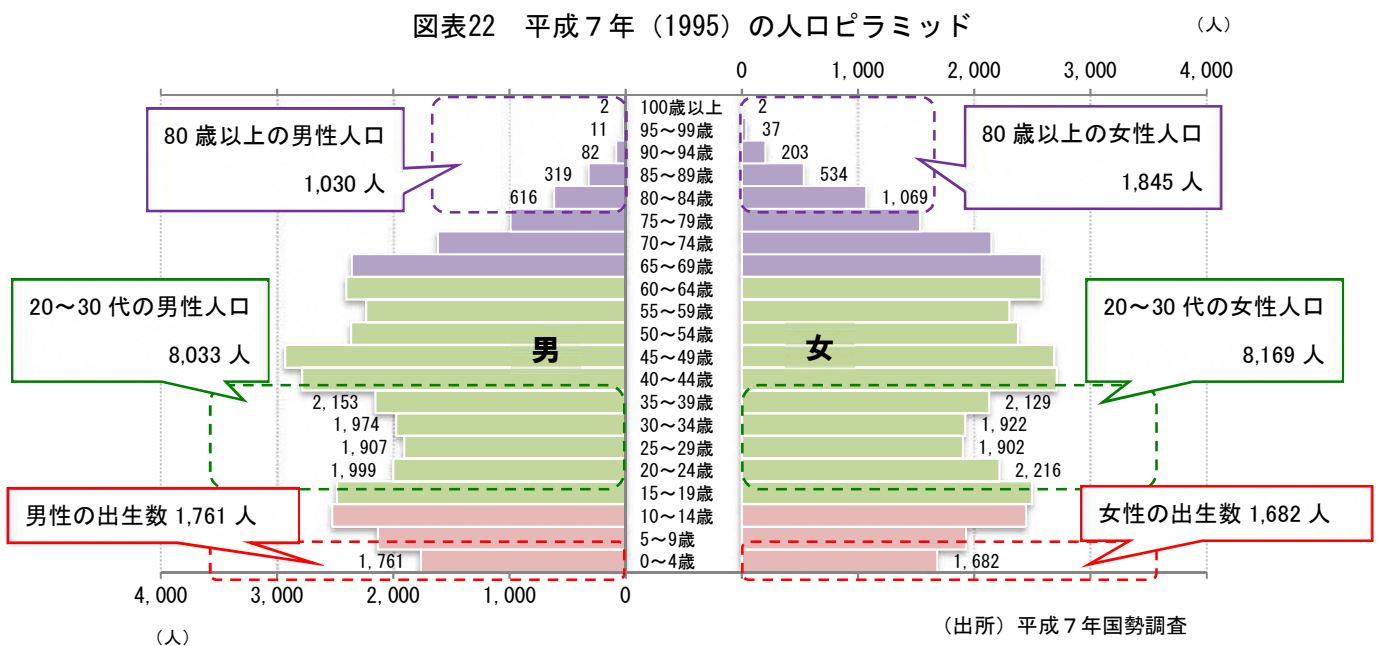
4 人口ピラミッドの推移と将来推計

- 昭和 55（1980）年から出生数の減少が始まり、人口ピラミッドが下すぼみの壺型に向かってきています。
- 平成 27（2015）年には女性の 20～30 代人口が男性を下回りました。
- 比較的人口の多い団塊ジュニア世代（1970 年代生まれ）が令和 22（2040）年には 65 歳以上になり、高齢化率が大きく上昇と見込まれます。
- 令和 22（2040）年の 30～34 歳以下は年齢が低下するごとに減少していますが、推計に基づく部分であり、将来の出生率により変化します。

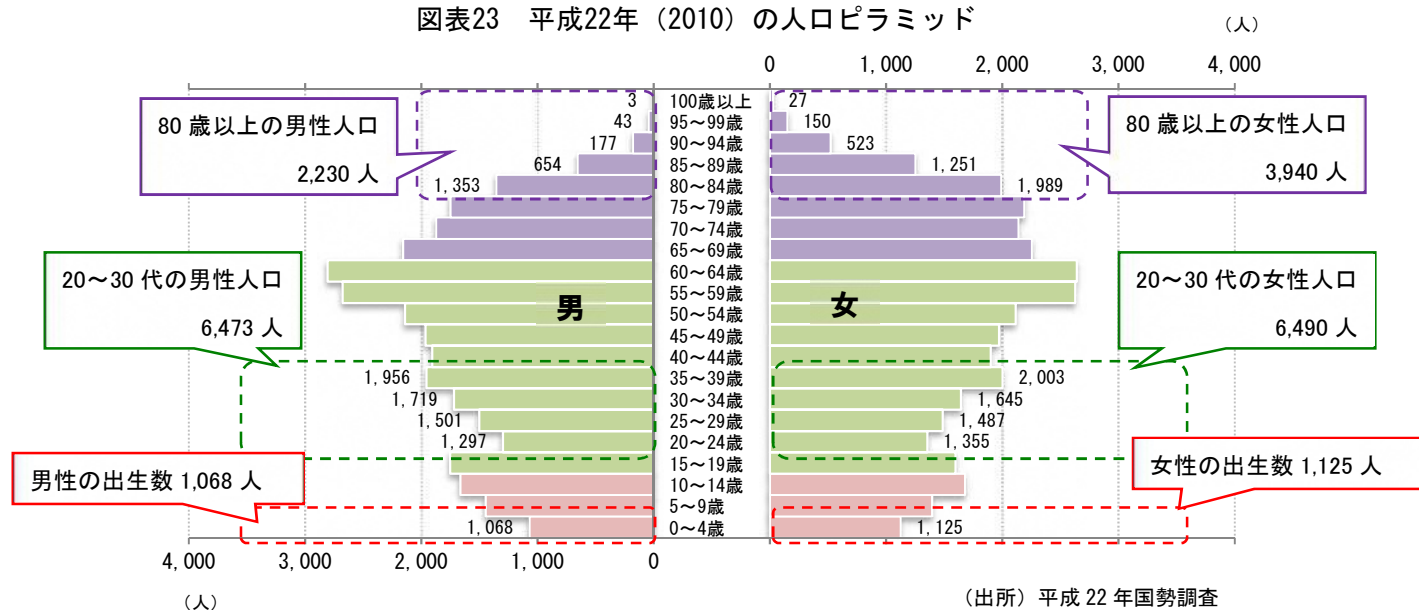
図表21 昭和55年（1980）の人口ピラミッド



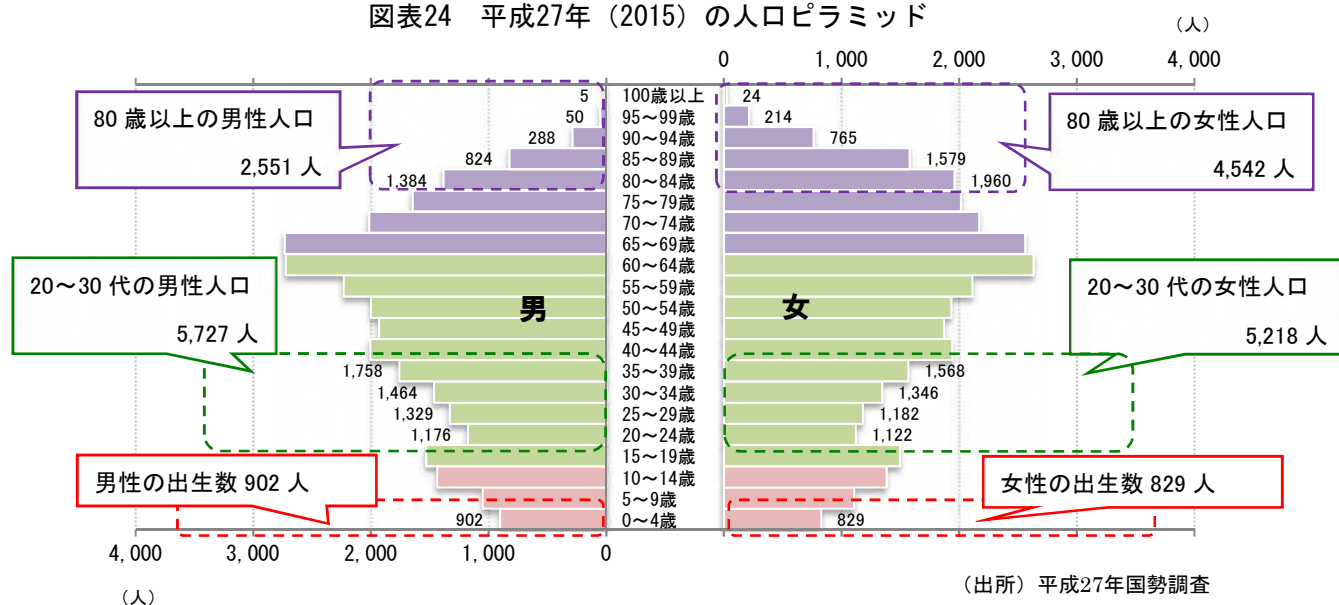
図表22 平成7年（1995）の人口ピラミッド



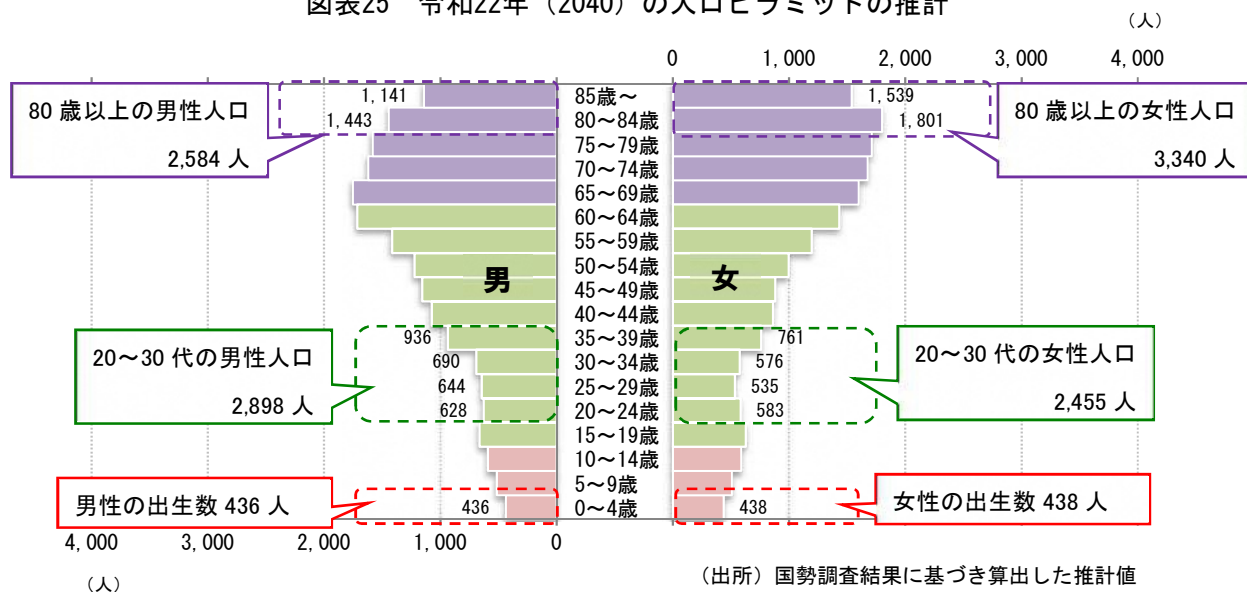
図表23 平成22年（2010）の人口ピラミッド



図表24 平成27年（2015）の人口ピラミッド



図表25 令和22年（2040）の人口ピラミッドの推計



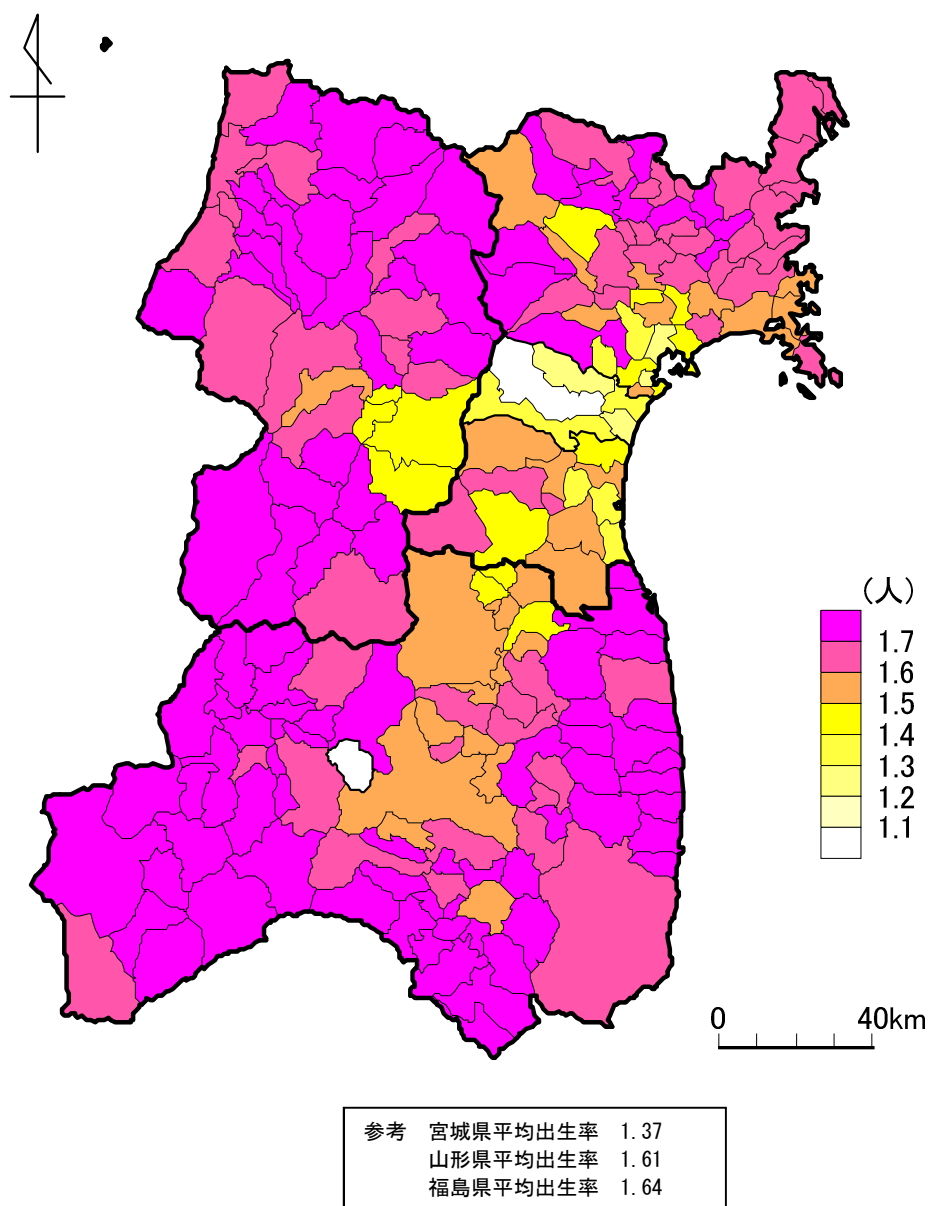
5 近隣の合計特殊出生率の推移

(1) 平成10年～14年の合計特殊出生率の推移

【分析及び結果の整理】

- 宮城県で平均を超えている市町村は66/75(88.0%)と高い傾向にあります。
- 福島県では平均を超えている市町村70/90(77.7%)と高い傾向にあります。
- 宮城県北部と福島県相双地域、県南地域、会津地域の出生率が高いことがわかります。
- 山形県では仙台市と交通の結び付きの強い地域で低い傾向がみられます。

図表 26 合計特殊出生率（平成10年～14年）

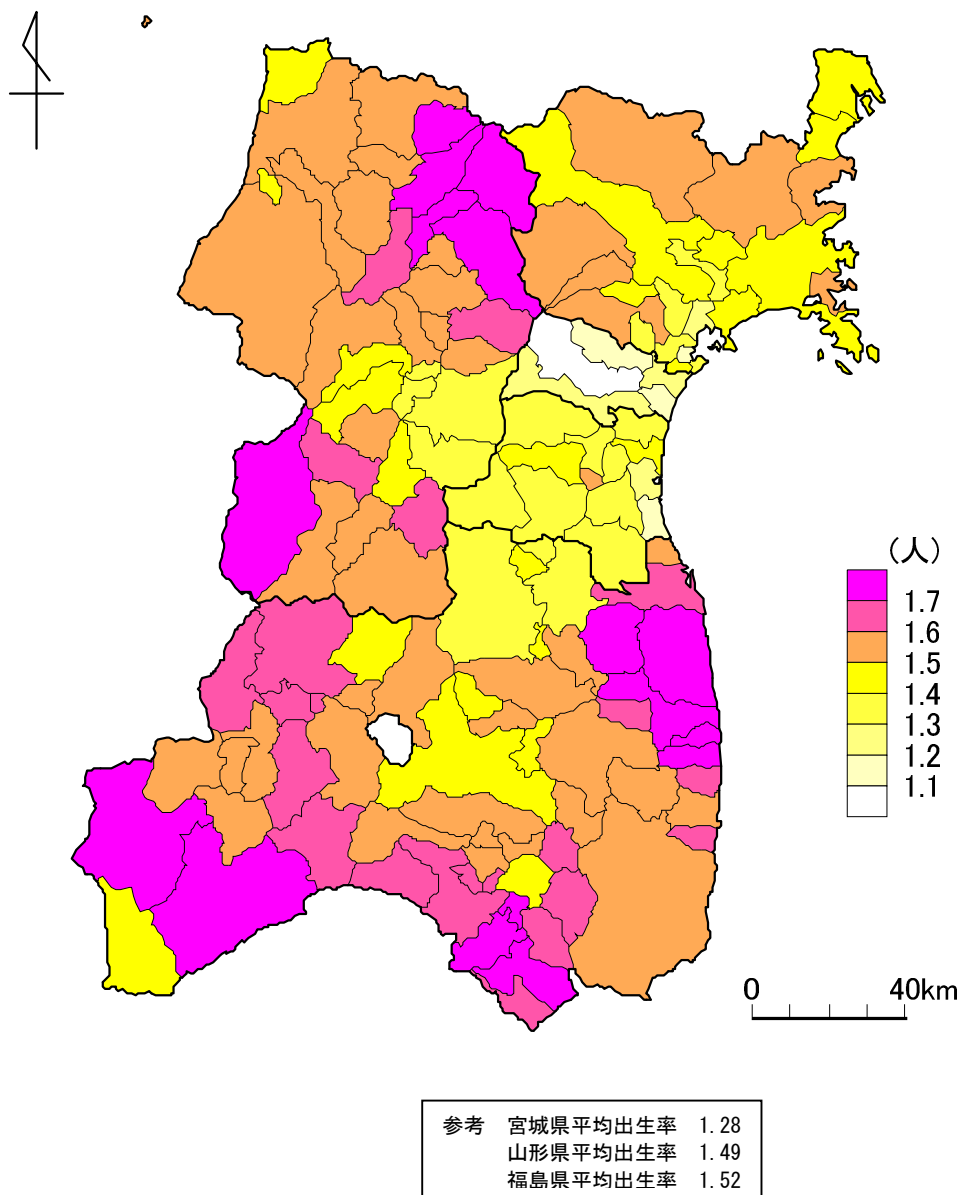


(2) 平成 15 年～19 年の合計特殊出生率の推移

【分析及び結果の整理】

- 宮城県で平均を超えている市町村は 31/40 (77.5%) と高い傾向にあります。
- 福島県では平均を超えている市町村 44/60 (73.3%) と高い傾向にあります。
- 福島県の相双地域、県南地域、南会津地域の出生率が高いことがわかります。
- 仙台市から山形市および中通り地域にかけて低い傾向がみられます。

図表 27 合計特殊出生率（平成 15 年～19 年）



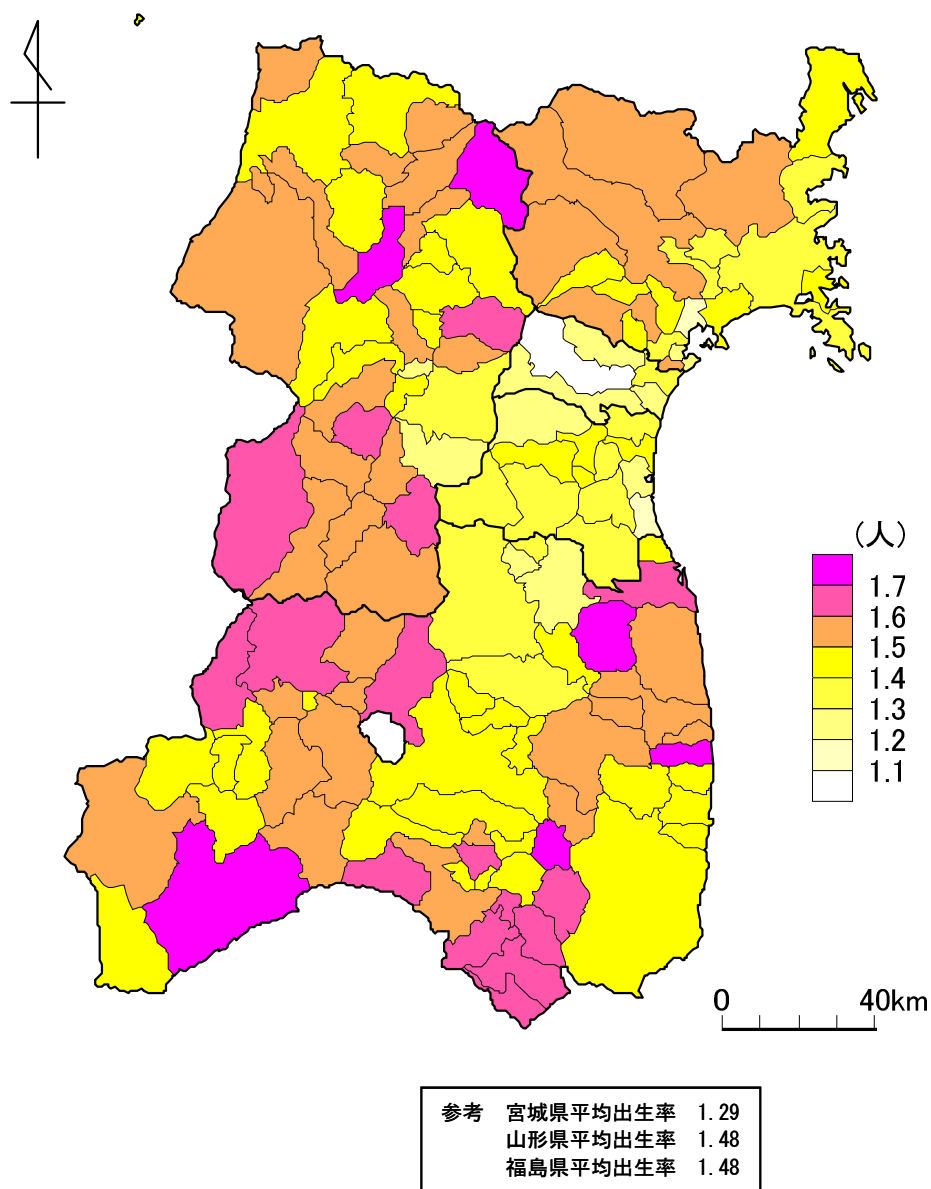
第4章 資料編

(3) 平成20年～24年の合計特殊出生率の推移

【分析及び結果の整理】

- 宮城県で平均を超えている市町村は29/39(74.4%)と高い傾向にあります。
- 福島県では平均を超えている市町村37/59(62.7%)と高い傾向にあります。
- 全体的に出生率が低下しており、特に宮城県南部と福島県北部、山形県東部の数値が低くなっています。

図表 28 合計特殊出生率（平成20年～24年）



平成 10 年～平成 14 年合計特殊出生率

宮城県		山形県		福島県	
合計特殊出生率		合計特殊出生率		合計特殊出生率	
宮城県	1.37	山形県	1.61	福島県	1.64
青葉区	1.08	山形市	1.44	福島市	1.52
宮城野区	1.38	米沢市	1.61	会津若松市	1.67
若林区	1.24	鶴岡市	1.64	郡山市	1.54
太白区	1.34	酒田市	1.65	いわき市	1.61
泉区	1.25	新庄市	1.8	白河市	1.76
石巻市	1.54	寒河江市	1.71	原町市	1.68
塩竈市	1.24	上山市	1.41	須賀川市	1.68
古川市	1.67	村山市	1.65	喜多方市	1.87
気仙沼市	1.61	長井市	1.78	相馬市	1.77
白石市	1.48	天童市	1.65	二本松市	1.66
名取市	1.42	東根市	1.71	桑折町	1.43
角田市	1.5	尾花沢市	1.75	伊達町	1.51
多賀城市	1.58	南陽市	1.75	国見町	1.43
岩沼市	1.53	山辺町	1.44	梁川町	1.51
蔵王町	1.6	中山町	1.45	保原町	1.54
七ヶ宿町	1.52	河北町	1.64	霊山町	1.41
大河原町	1.63	西川町	1.67	月館町	1.59
村田町	1.58	朝日町	1.69	川俣町	1.66
柴田町	1.38	大江町	1.52	飯野町	1.53
川崎町	1.54	大石田町	1.74	安達町	1.59
利府町	1.52	金山町	1.91	大玉村	1.57
亘理町	1.37	最上町	1.83	本宮町	1.66
山元町	1.3	舟形町	1.69	白沢村	1.59
松島町	1.25	真室川町	1.82	岩代町	1.65
七ヶ浜町	1.46	大蔵村	2.01	長和町	1.66
利府町	1.4	鮭川村	1.95	長沼町	1.81
大和町	1.71	戸沢村	1.75	鏡石町	1.82
大郷町	1.39	高島町	1.74	若瀬村	1.59
富谷町	1.3	川西町	1.75	天栄村	1.67
大衡村	1.53	小国町	1.7	田島町	1.89
中新田町	1.58	白鷹町	1.73	下郷町	2.06
小野田町	1.74	飯豊町	1.76	銘岩村	1.81
宮崎町	1.86	立川町	1.74	樽枝岐村	1.69
色麻町	1.68	余目町	1.72	伊南村	1.94
松山町	1.46	藤島町	1.76	南郷村	2.17
三本木町	1.62	羽黒町	1.74	只見町	1.91
鹿島台町	1.53	柳町	1.75	北会津村	1.96
岩出山町	1.49	三川町	1.67	熱塩加納村	2.05
鳴子町	1.53	朝日村	1.69	北塩原村	1.67
涌谷町	1.6	温海町	1.72	塩川町	1.87
田尻町	1.65	遊佐町	1.65	山郷町	1.96
小牛田町	1.55	八幡町	1.72	西会津町	2.09
南郷町	1.45	松山町	1.7	高郷村	1.76
築館町	1.74	平田町	1.65	磐梯町	1.79
若柳町	1.67			猪苗代町	1.87
栗駒町	1.64			会津坂下町	1.91
高清水町	1.65			湯川村	1.8
一迫町	1.72			柳津町	1.9
瀬峰町	1.68			河東町	1.82
磐沢町	1.77			会津高田町	1.7
金成町	1.7			会津本郷町	1.7
志波姫町	1.61			新鶴村	1.68
花山村	1.72			三島町	1.72
迫町	1.76			金山町	1.72
登米町	1.79			昭和村	1.86
東和町	1.63			西郷村	1.94
中田町	1.9			表郷村	1.82
豊里町	1.85			東村	1.8
米山町	1.62			泉崎村	2.01
石越町	1.66			中島村	1.81
南方町	1.64			矢吹町	1.63
河北町	1.6			大信村	1.99
矢本町	1.63			棚倉町	1.93
雄勝町	1.59			矢祭町	1.94
河南町	1.53			塙町	1.89
桃生町	1.61			鮫川村	1.97
鳴瀬町	1.44			石川町	1.57
北上町	1.64			玉川村	1.72
女川町	1.57			平田村	1.77
杜鹿町	1.63			浅川町	1.84
志津川町	1.67			古殿町	1.76
津山町	1.66			三春町	1.54
本吉町	1.63			小野町	1.64
唐桑町	1.61			滝根町	1.72
歌津町	1.63			大越町	1.64
				郡路村	1.76
				常葉町	1.68
				船引町	1.7
				広野町	1.91
				檜葉町	1.81
				富岡町	1.76
				川内村	1.81
				大熊町	1.83
				双葉町	1.83
				浪江町	1.8
				葛尾村	1.73
				新地町	1.71
				鹿島町	1.73
				小高町	1.74
				飯館村	2.02

平成 15 年～平成 19 年合計特殊出生率

宮城県		山形県		福島県	
合計特殊出生率		合計特殊出生率		合計特殊出生率	
宮城県	1.28	山形県	1.49	福島県	1.52
青葉区	0.99	山形市	1.34	福島市	1.36
宮城野区	1.28	米沢市	1.51	会津若松市	1.54
若林区	1.16	鶴岡市	1.55	郡山市	1.47
太白区	1.26	酒田市	1.51	いわき市	1.55
泉区	1.18	新庄市	1.7	白河市	1.64
石巻市	1.44	寒河江市	1.56	須賀川市	1.56
塩竈市	1.16	上山市	1.37	喜多方市	1.66
気仙沼市	1.44	村山市	1.54	相馬市	1.66
白石市	1.35	長井市	1.64	二本松市	1.51
名取市	1.3	天童市	1.5	田村市	1.52
角田市	1.38	東根市	1.64	南相馬市	1.7
多賀城市	1.49	尾花沢市	1.75	伊達市	1.33
岩沼市	1.46	南陽市	1.48	本宮市	1.54
登米市	1.57	山辺町	1.39	桑折町	1.41
栗原市	1.54	中山町	1.38	国見町	1.34
東松島市	1.45	河北町	1.54	川俣町	1.51
大崎市	1.49	西川町	1.55	飯野町	1.49
蔵王町	1.44	朝日町	1.49	大玉村	1.42
七ヶ宿町	1.34	大江町	1.41	鏡石町	1.55
大河原町	1.55	大石田町	1.52	天栄村	1.53
村田町	1.3	金山町	1.72	下郷町	1.61
柴田町	1.3	最上町	1.79	樽枝岐村	1.41
川崎町	1.31	舟形町	1.71	只見町	1.71
丸森町	1.37	真室川町	1.54	南会津町	1.73
亘理町	1.26	大蔵村	1.61	北塩原村	1.43
山元町	1.14	鮭川村	1.55	西会津町	1.69
松島町	1.23	戸沢村	1.58	磐梯町	1.56
七ヶ浜町	1.37	高島町	1.63	猪苗代町	1.59
利府町	1.33	川西町	1.55	会津坂下町	1.66
大和町	1.52	小国町	1.71	湯川村	1.62
大郷町	1.36	白鷹町	1.53	柳津町	1.58
富谷町	1.34	飯豊町	1.58	三島町	1.5
大衡村	1.48	三川町	1.46	金山町	1.5
色麻町	1.5	庄内町	1.59	昭和村	1.56
加美町	1.59	遊佐町	1.41	会津美里町	1.6
涌谷町	1.4			西郷村	1.67
美里町	1.38			泉崎村	1.63
女川町	1.56			中島村	1.6
本吉町	1.48			矢吹町	1.53
南三陸町	1.55			棚倉町	1.75
				矢祭町	1.67
				塙町	1.63
				鮫川村	1.61
				石川町	1.46
				玉川村	1.48
				平田村	1.75
				浅川町	1.61
				古殿町	1.64
				三春町	1.40
				小野町	1.54
				広野町	1.48
				檜葉町	1.48
				富岡町	1.49
				川内村	1.47
				大熊町	1.77
				双葉町	1.53
				浪江町	1.59
				葛尾村	1.51
				新地町	1.47
				飯館村	1.78

平成 20 年～平成 24 年合計特殊出生率

宮城県		山形県		福島県	
合計特殊出生率		合計特殊出生率		合計特殊出生率	
宮城県	1.29	山形県	1.48	福島県	1.48
青葉区	1.06	山形市	1.37	福島市	1.35
宮城野区	1.36	米沢市	1.52	会津若松市	1.59
若林区	1.22	鶴岡市	1.54	郡山市	1.43
太白区	1.28	酒田市	1.48	いわき市	1.49
泉区	1.20	新庄市	1.58	白河市	1.55
石巻市	1.37	寒河江市	1.54	須賀川市	1.49
塩竈市	1.24	上山市	1.26	喜多方市	1.61
気仙沼市	1.44	村山市	1.43	相馬市	1.63
白石市	1.36	長井市	1.56	二本松市	1.39
名取市	1.31	天童市	1.53	田村市	1.51
角田市	1.34	東根市	1.66	南相馬市	1.56
多賀城市	1.52	尾花沢市	1.47	伊達市	1.28
岩沼市	1.43	南陽市	1.56	本宮市	1.43
登米市	1.53	山辺町	1.42	桑折町	1.29
栗原市	1.50	中山町	1.29	国見町	1.36
東松島市	1.45	河北町	1.44	川俣町	1.40
大崎市	1.50	西川町	1.41	大玉村	1.49
蔵王町	1.41	朝日町	1.55	鏡石町	1.50
七ヶ宿町	1.36	大江町	1.45	天栄村	1.49
大河原町	1.43	大石田町	1.48	下郷町	1.58
村田町	1.44	金山町	1.53	樽枝岐村	1.43
柴田町	1.35	最上町	1.70	只見町	1.58
川崎町	1.25	舟形町	1.51	南会津町	1.73
丸森町	1.30	真室川町	1.44	北塩原村	1.59
亘理町	1.27	大蔵村	1.75	西会津町	1.66
山元町	1.11	鮭川村	1.58	磐梯町	1.55
松島町	1.16	戸沢村	1.45	猪苗代町	1.60
七ヶ浜町	1.20	高島町	1.60	会津坂下町	1.51
利府町	1.32	川西町	1.51	湯川村	1.47
大和町	1.55	小国町	1.64	柳津町	1.48
大郷町	1.42	白鷹町	1.63	三島町	1.45
富谷町	1.43	飯豊町	1.58	金山町	1.46
大衡村	1.45	三川町	1.56	昭和村	1.46
色麻町	1.41	庄内町	1.56	会津美里町	1.52
加美町	1.53	遊佐町	1.52	西郷村	1.62
涌谷町	1.31			泉崎村	1.44
美里町	1.32			中島村	1.49
女川町	1.40			矢吹町	1.60
南三陸町	1.35			棚倉町	1.67
				矢祭町	1.69
				塙町	1.63
				鮫川村	1.61
				石川町	1.46
				玉川村	1.48
				平田村	1.75
				浅川町	1.61
				古殿町	1.64
				三春町	1.40
				小野町	1.54
				広野町	1.48
				檜葉町	1.48
				富岡町	1.49
				川内村	1.47
				大熊町	1.77
				双葉町	1.53
				浪江町	1.59
				葛尾村	1.51
				新地町	1.47
				飯館村	1.78

(出所) 厚生労働省 人口動態保健所・市区町村別統計の概況